

「小さな自然再生サミット 2025 京都大会」開催報告

ーみんなで考える「小さな自然再生」の次の一手ー

A report on hosting of "Collaborative Nature Restoration Summit 2025 in Kyoto"

自然環境グループ／企画グループ 主任研究員 和田 彰
 水循環・まちづくり・防災グループ 研究員 佐藤 充人
 自然環境グループ 主任研究員 白尾 豪宏
 自然環境グループ 研究員 鈴木 敏弘

1. はじめに

当研究所では、身近な水辺をフィールドに様々な主体が発案・協働し楽しみながら手づくりで自然再生を行う「水辺の小さな自然再生」の社会実装を目指して、全国の実践事例を普及するとともに、担い手を増やし育成するための研修行事等を約 10 年にわたり開催している。また、小さな自然再生の担い手が集い熱い思いやノウハウを共有するため、2019 年 1 月に「小さな自然再生サミット 2019 神戸大会」をはじめて開催した。

本稿では、全国の小さな自然再生の担い手のネットワークを強化し、行政機関や民間企業の更なる支援を獲得し、小さな自然再生の取組みをさらに深化・拡大することを目的として 7 年振りに開催した「小さな自然再生サミット 2025 京都大会」の概要を報告する。

表ー1 サミット 2025 京都大会の概要

開催日時	2025 年 12 月 7 日（日） 10:00～17:00	
開催場所	京都大学宇治キャンパス宇治おうばくプラザ	
主催	小さな自然再生サミット実行委員会	
後援	国土交通省、環境省、 公益財団法人リバーフロント研究所	
協賛団体	14 社	
事例発表	30 団体	
参加者	約 200 名	
参加費	無料	
プログラム	10:00	サミット開会、来賓挨拶
	10:15-12:40	全国事例発表
	12:40-13:40	昼食／発表者ポスター交流
	13:40-16:00	パネルディスカッション ～次の一手を考える～
	16:10-17:00	茶話会

2. 実行委員会の結成

本サミットを開催するにあたり、これまで小さな自然再生の取組みを牽引されてきた有識者の方々、また全国への普及促進に際し様々な形でご支援をいただいた専門家の方々に呼び掛け、有志メンバーによって本サミットを主催する実行委員会を組織した。実行委員会の事務局メンバーを当研究所の著者らが務め、サミットの開催に向けた企画調整及び準備を担った。

表ー2 小さな自然再生サミット実行委員会

■実行委員長：

中村 太士（北海道大学大学院農学研究院 名誉教授）

■実行委員

（五十音順）

氏 名	所 属
今井 洋太	神戸市立工業高等専門学校
伊豫岡 宏樹	九州産業大学建築都市工学部
佐藤 祐一	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
杉野 伸義	KANSOテクノス
瀧 健太郎	滋賀県立大学環境科学部湖沼流域管理研究センター
竹内 えり子	建設技術研究所
武田 みゆき	日本環境NPOネットワーク
田原 大輔	福井県立大学海洋生物資源学部
林 博徳	九州大学工学研究院環境社会部門
原田 守啓	岐阜大学 高等研究院環境社会共生体研究センター
町田 善康	美幌博物館
三橋 弘宗	兵庫県立人と自然の博物館
山下 慎吾	環境省自然環境局生物多様性センター

3. 事例発表団体の公募

小さな自然再生の担い手による事例発表を公募したところ、北海道から九州まで全国 30 団体より応募があり、サミット前半で「①自慢したいこと、強み」「②知りたいこと、悩みごとや困りごと」「③今後コラボしたい“こと”や“ひと”」について各団体 4 分ずつで発表頂いた。発表団体の活動フィールドや取組みでは、河川が 22、湿地・水田が 8、魚道が 6、里山が 5、湖沼が 3 の団体（重複含む）であり、発表団体の属性は図ー1

のとおりであった。

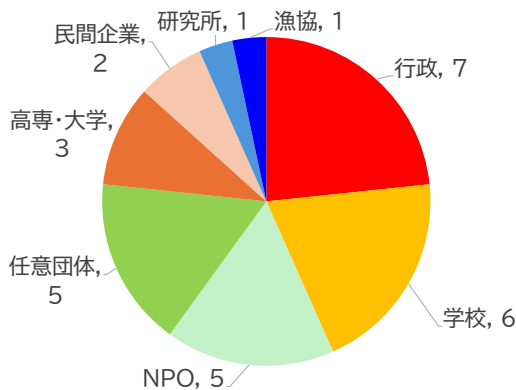


図-1 事例発表団体の属性 (30 団体)

4. サミットの開催

4-1 サミット参加者の属性

サミットには対面で約 200 名が参加し、地方構成では開催地の近畿から約 4 割、関東から 2 割、中部から 1 割、この他北海道から九州まで全国から参加頂いた。

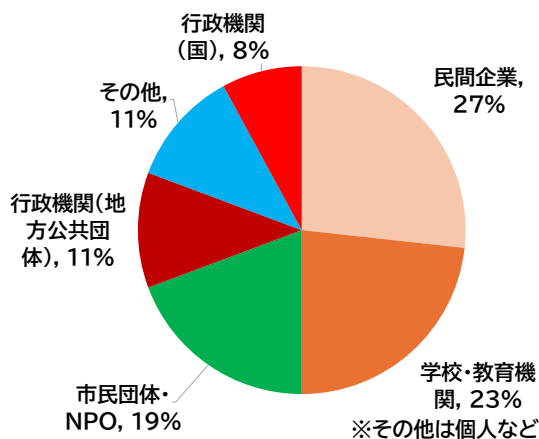


図-2 サミット参加者の属性

4-2 パネルディスカッション

午後からは「小さな自然再生の次の一手を考える」を主テーマに、前半は小さな自然再生の技術について、後半は小さな自然再生の進め方について議論を深めた。前半の議論では、ある場所での素晴らしい技術が横展開され、さらに工夫がなされよい技術となっていくサイクルに深化していることが確認された。また後半では、最初の一步の突破口、活動が続ける中での壁、また活動の目標や出口に関する参加者の経験が共有され、次なる一手に向けた全国の取組み事例に基づくヒントを参加者で学び合った。



写真-1 サミット当日の様子

5. サミット成果の普及

本サミットでの事例発表資料、ポスター交流会の様子、またパネルディスカッションでの討議の要旨をまとめた「開催報告」を作成し全国に発信した。



図-3 サミット開催報告

6. おわりに

本サミットは、有志の実行委員の皆様、全国より集まった事例発表団体や参加者の方々、そして協賛、後援頂いた企業、団体の関係者の皆様の強力なご支援のおかげで開催することができました。ここに厚く御礼申し上げます。

なお、本サミットの準備プロセスから開催報告までの詳細情報は、以下のウェブページに掲載しています。

■「小さな自然再生サミット 2025 京都大会」URL:

<https://www.rfc.or.jp/collaboriversummit2025.html>